

与市兵衛地藏



岩面の横和田に男の人が赤ん坊をだしている珍しいお地藏様があります。

元文年間（二百八十年前）この地区に渡辺与市という百姓がすんでいました。与市は年頃になりお嫁さんをもらい、仲良く野良仕事に精を出していました。二人の間に可愛い男の子が生まれましたが、お嫁さんの肥立ちがわるく二十一日目に死んでしまいました。

与市は乳のみ児をかかえ仕事もできず毎日赤ん坊をだいて「もらい乳」をしてあるきました。おなかをすかして泣く赤ん坊をみて、たまらなくなった与市は、近所の家が翌朝のためにとおいでおいた米を、釜の中から一にぎり盗んで来てはすりつぶし、煮て赤ん坊にのませていました。赤ん坊がだんだん大きくなるにつれ与市の盗みもひどくなり、とうとう近所の人々は困りはて、相談をして与市をつかまえることにしました。よその家の縁の下に逃げこんだ与市を、みんなしてマンガやコスリ等でつつき出し俵につめようとなりました。

「子供に罪はねえ。子供だけは助けてくんない。たのむでえ。」

一生懸命に頼む与市の言葉に人々は

「どろぼうの子は、何をするかわかんねえ。」と口々にさおぎ、親子共に俵につめこみ川の深みに投げこみ、俵が浮び上がりぬ様にタイまで打ってしまいました。スミダと呼ばれている所です。それから物はなくならなくなりましたが、村中に何か良くない事ばかり起るようになりました。ある日通りかかった坊様にきいてみると

「何か人殺しの様なことしてないか。」

というので、今迄のいきさつを話しました。

「ねんごろに供養した方がよい。」

といわれたので村人は、地蔵様をつくり家々を順番にまわして供養する様にしました。

それから百年後、与市親子を供養するために道ばたに石碑を建て、一人でも多くの人にお参りをしてもらおうようにしました。

更に又百年後、ある村人の病気がなかなかよくなるないのでみてもらおうと

「地蔵様が、もとの土地に安住したいといっている。」

との事で、与市の屋敷あとへ小さなお堂を建て地蔵様を安置しました。その後お堂も大きくなり今の様になりました。

三十年ほど前までは、与市親子をなげこんだスミダ近くの田んぼには昼間でも恐くて、一人では行けなかったとか。又誰も近寄らないので、スミダには魚がたくさんいました。何も知らない他の土地の人が釣りにやって来ますがバケツ一杯とったはずの魚が帰ろうとすると必ず一匹もいなくなっているとか。蛇が出て「与市兵衛だんべ」。スミダ近くに釣り道具が捨ててあると「与市兵衛が出たんだんべえ」とか。与市さんの噂は約三百年たっても村人の口から口へとかたりつがれているのでした。

☆マンガ―農機具の一つ